

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500406
法人名	社会福祉法人すいよう会
事業所名	グループホーム陽だまり
所在地	新居浜市郷3-16-40
自己評価作成日	平成25年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年7月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の看取りや病気による死亡が、平成25年に入り続いた。看取りについては、グループホームで出来るケアを最期まで支援できる体制が整った。昨年までは、重度の方へのケアに力を入れてきたが、今年度は認知症へのケアと重度ケアの両立をしっかりとできるよう、年間事業計画には「役割や目標をもち生きる意欲の高まる日常生活」を第一項に挙げて取り組んでいます。あたり前の生活と、ケアのある場所での生活が混在しながらも「自分らしく」過ごして頂けるように配慮をしています。さらに、学習療法をケアに生かしながらご利用者の生活の質向上に努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所の理念とともに、8つの幸せ言葉（ついでに、愛してる、大好き、幸せ、楽しい、うれしい、大丈夫、ありがとう）を、居間や廊下に掲示し、朝礼時、職員は利用者と一緒に唱和されている。  
 ●職員のさらなるスキルアップを目指して、事業所では、毎月の職員ミーティング時には、10分間で「黒帯テスト」と名付けた介護の基本的で重要なことについて、テストを行なっている。職員は、テストについて「スキルアップにつながり、日々の介護に役立つ」と感じておられる。次回は、職員が講師や利用者役になり、足浴、オムツ交換、移乗等の技術面についてのテストを予定されている。  
 ●友人が訪ねて来られた際、食事を用意され、利用者と一緒に昼食を食べてもらえるようすすめられたり、お孫さんの結婚式に出席する際には、娘さんが用意された衣装に着替え準備できるよう、職員がサポートされた。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム陽だまり

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

田中 加代

評価完了日

2013 年 06 月 28 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人全体の理念「ご利用者と共に、地域と共に」とグループホームの理念「ゆったり笑顔で寄り添います。」の元、利用者と接する際には、笑顔を忘れずにケアを実施している。また、エール言葉を利用したり、8つの幸せ言葉の唱和するなど職員は、精神面での共有もすることができている。	
			(外部評価) 事業所の理念とともに、8つの幸せ言葉(ついでに、愛してる、大好き、幸せ、楽しい、うれしい、大丈夫、ありがとう)を、居間や廊下に掲示し、朝礼時、職員は利用者と一緒に唱和されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会活動への参加を定期的に行っている。清掃活動や、自治会盆踊り、校区盆踊りなどへ職員及び利用者と共に参加している。また、子供太鼓の来訪による子供との交流・ハロウィンには焼き芋でもてなすなど地域の子供たちとの交流を行っている。 また、「不用品販売」の実施をしてホームへ地域の方々が来られる機会を作っている。	
			(外部評価) 6月に事業所の庭で「不用品バザー」を開催した際には、利用者と職員で値段を決め販売して、地域の方達とふれ合われた。以前の管理者が地域の小学校で「介護教室」を行なったことがきっかけで、毎年、夏休みには小学生がキッズヘルパーとして事業所を訪問してくれている。今年で4年目となる。子ども達は、利用者と一緒に手芸や料理等しながらふれ合われており、訪問を希望する子どもは年々増えているようだ。秋には、小学校の「お祭り集会」に利用者も参加して交流されている。普段から事業所前の道を登下校する小学生とあいさつしたり、事業所で飼っている猫を見に立ち寄る子どももいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 年2回は、ホーム長が中心となり地域自治会において世代交流会での講座を実施している。また、小学生に向けた介護教室(前年・神郷小学校5年生)を実施し、その流れでキッズヘルパーへの参加者も増加している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 2か月に1回の実施を行い、日頃の様子をDVDにまとめて見て頂いている。花見やいも炊きなどの行事と合同で行い利用者の様子を知って頂けるようにしている。また、平成24年度は、トロミ食・介護食の試食や排泄についてオムツの性能実験を見て頂くなど、内容について充実できるようにしている。また、質問や意見は現場へ戻せるようにミーティングなどで周知を実施している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 会議は、ご家族からの希望もあり、土曜日の夜間に開催されている。会議では、事業所での生活の様子をDVDでお見せしながら報告されたり、看取りや認知症についての事例報告等も行なわれた。ご家族からは、「以前より生き生きしている」「笑顔が増えた」等、事業所サービスを利用しての感想等も話されている。</p>	<p>小学生との交流も深まり、今後は、小学校の教頭先生にも会議に出席をお願いしたいと考えておられる。事業所と地域とのおつきあいをさらに深めていくことを目指して、会議の機会を活かして、地域のいろいろな立場の方に声をかけ、事業所や認知症のこと等を知ってもらえるよう、取り組みを拡げていかれてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p><b>(自己評価)</b> 運営推進会議のご案内に不手際があり、前年度は市役所からの参加が少なくなりました。連絡体制を郵便・ファックスの両方を使い、漏れのないように改善をおこなった。看取りがつづき、制度上の相談などにおいては、市役所介護福祉課のご指導を頂くようにしている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 今年度、4月、6月の運営推進会議時は、市の担当者の出席をいただき、事業所の活動や実情を具体的に知っていただいた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p><b>(自己評価)</b> 夜間のみ施錠している。日中は、玄関・門扉ともに解放を実施している。また、身体拘束による危険性などの学習を年に1回は実施し、教育を行っている。自由であることの安全性の確保に力を入れている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 調査訪問時、利用者は玄関から出られ、洗濯ものを干しておられる様子がみられた。法人の「事故防止委員会」時の内容を事業所に持ち帰り、伝達して勉強会を行なっておられる。身体拘束のないケアに向けて、ご家族の理解も大切であり、管理者は「できる」「できない」でなく利用者の何かをしようとする行動が大切なので、行動を制止するのではなく見守ってほしい、とご家族に話しておられる。</p>	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全体研修・管理者研修・事故防止委員会などにおいて虐待防止について学ぶ機会がある。また、随時ホーム内における指導の場面でも徹底できるよう話し合う機会がある。さらに、虐待に及ばないケアの組み立て、利用者への感謝の関係づくり、感謝の人材育成に努める事が、虐待防止へ一役かっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 新居浜市の成年後見に携わっておられる山本豪氏をお迎えして、権利擁護について利用者ご家族と共に学ぶ機会があった。そけがきっかけで、利用者ご家族の中には法的な手続きの相談ができた方がいらっしゃるなど、活用できたと思われる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入退所が多い年度であった。その都度、ご家族様には丁寧にご説明と同意を頂くように心がけ、納得頂くことでスムーズな手続きが行われている。また、年1回は必ず解約や他施設(特養)などへ希望確認を実施している。希望のある入居者へは、入居申し込みや現状の説明などをする事も行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を利用してご意見を聞かせて頂き、必要時にはご家族と会話する事で意見や要望を聞く場を設けている。例えば、オムツパットの代金は、支払が2か月分を1月に落ちないようにしてほしいというご意見に応じて、業者間での支払方法の改善により月ごとの支払いで行えるようにすることができている。 (外部評価) 運営推進会議には多くのご家族の参加があり、事業所からの報告等を聞き、意見等を出しておられる。認知症についてお話をされた際には、「立ち上がろうとした時に危ないからと、制止をしていたが、そうではなく見守ることが大事なことが分かった」と、ご自宅でケアされていた時を振り返るご家族もあった。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティング・毎日の朝礼や申し送りで職員の意見や提案を聞く機会があり、繁栄できるよう話し合うことができている。また、H25.6月に実施した「陽だまり不要品販売」も職員からの企画提案により実施している。	
			(外部評価) 職員のさらなるスキルアップを目指して、事業所では、毎月の職員ミーティング時には、10分位で「黒帯テスト」と名付けた介護の基本的で重要なことについて、テストを行なっている。職員は、テストについて「スキルアップにつながり、日々の介護に役立つ」と感じておられる。今回は、職員が講師や利用者役になり、足浴、オムツ交換、移乗等の技術面についてのテストを予定されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) マイケアプランの作成を毎年行っている。マイケアプランを基にした自己評価や面接をすることで、職員の勤務状況や希望などを話すことができている。また、モチベーションを維持することができるように勉強会や朝礼読書を実施している。感動を共有できることによって感謝の関係づくりの職場ができています。	
			(外部評価) 事業所内における「人材育成」「木鶏会」「介護技術勉強会」など数多くの研修を実施。毎月「介護の黒帯テスト」を実施することで、一人一人の力量の把握をすることができている。また、丁寧なケアが習慣的に行えるようにトレーニングを実施できている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 学習療法の研修会や地域密着型サービス協会の研修会などを通して、同業者との交流を持つ機会があった。また、法人内で実施していた「地域読書会」などで意見を交換する場が設けられていた。相互訪問はこの3年間実施していない。しかし、法人内の事業所の増加に伴い、今後は法人内においても相互研修を予定していきたい。	
			(外部評価) 学習療法の研修会や地域密着型サービス協会の研修会などを通して、同業者との交流を持つ機会があった。また、法人内で実施していた「地域読書会」などで意見を交換する場が設けられていた。相互訪問はこの3年間実施していない。しかし、法人内の事業所の増加に伴い、今後は法人内においても相互研修を予定していきたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 学習療法の研修会や地域密着型サービス協会の研修会などを通して、同業者との交流を持つ機会があった。また、法人内で実施していた「地域読書会」などで意見を交換する場が設けられていた。相互訪問はこの3年間実施していない。しかし、法人内の事業所の増加に伴い、今後は法人内においても相互研修を予定していきたい。	
			(外部評価) 学習療法の研修会や地域密着型サービス協会の研修会などを通して、同業者との交流を持つ機会があった。また、法人内で実施していた「地域読書会」などで意見を交換する場が設けられていた。相互訪問はこの3年間実施していない。しかし、法人内の事業所の増加に伴い、今後は法人内においても相互研修を予定していきたい。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に訪問・面接を実施している。生活の様子や家庭事情を踏まえて、本人の「生きる希望」に触れられる聞き取りを実施できるように心がけている。特に、今までは困っていることを聞くことがあったが、どちらかといえば「本人がしたい事」「本人ができる事」を中心に聞き取り関係づくりができるように努めている。	
			(外部評価) 事前に訪問・面接を実施している。生活の様子や家庭事情を踏まえて、本人の「生きる希望」に触れられる聞き取りを実施できるように心がけている。特に、今までは困っていることを聞くことがあったが、どちらかといえば「本人がしたい事」「本人ができる事」を中心に聞き取り関係づくりができるように努めている。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) グループホームの目的と方針を理解して頂けるようにじっくりとお話しをするようにしている。そして、困っている事や不安要素をお伺いしているが、初期に必ず利用者にどうあってほしいかという要望を忘れず確認し、ご家族も納得されるサービスを提供できるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 平成25年度は、新規入居者の選定がありサービス利用前の面接を数件実施している。中には、独居ではあるが在宅においてデイを利用して、「デイが自分が先生になったり、手芸やら勉強やら教えたり教えてもらってるの」といわれ、今の生活が役割をもった待機者に出会うこともあった。入居者確保もしたいが、生きがいを取り上げることのない支援をケアマネと選択し入居を見送った。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ひだまりは 家族のような あたたかさ」という短歌を詠まれた方がいますが、「共に今を生きる」を大切にしている。決して一方通行のケアにならず、相互の関係づくりになるように感謝の関係づくり「ありがとう」を利用者に伝える事が多い「暮らしの場」であるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の希望により自宅へ帰られるような機会づくりを行っている。また、お花見・餅会・もちつきなど行事に応じてご家族に協力を頂きながら、人生の節目にはご家族の希望をお伺いし、後方支援ができるようにしている。お花見では、利用者の好物の卵焼きをご家族が作ってこられ、食べられなくなっていた利用者がこの世で最期に食べた物になるなど、関係づくりを支えることができた。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご入居前に利用していたサービスでの友人との関係を断ち切らないように、面会に行ったり、日帰り旅行を合同で参加したりと、ご本人の要望も聞きながら、支援することが出来ている。ふらっと、自宅のあった場所へ散歩に行き、兄弟やご近所の方との面会がなくなる1か月前に行えるなど、大切な関係継続ができるようにしている。	
			(外部評価) 友人が訪ねて来られた際、食事を用意され、利用者と一緒に昼食を食べてもらえるようすすめられたり、お孫さんの結婚式に出席する際には、娘さんが用意された衣装に着替え準備できるよう、職員がサポートされた。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性や関係を考慮して、日常の行事や、配席・外出の座席などには気を配り、コミュニケーションが円滑に行くように、職員が間に入ることで、孤立をふせぎみんなさんで楽しめる機会を演出している。また、体調の悪い方への利用者の気遣いもあったりとほほえましい様子もみられることがある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、看取り勉強会へ参加して頂いたり、行事への協力を頂いたりすることで、お話をする機会がある。また、ケアハウスへ転居された利用者については、ケアハウスにおける生活の相談やご家族の相談と支援を行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎月のカレンダーに「今月の私」を設けることで、ご本人の暮らしの希望を明確にしている。他にも利用者の夢・希望をお聞きしたり、家族から聴取したりすることで夢をかなえることができるようにしている。また、困難な方については、背景分析やこれまでの生活習慣などに応じて検討し実施している。 (外部評価) 学習療法で回想した時、ふと漏らした利用者の言葉を取り上げて、プランに盛り込むようなこともある。たとえば、ご自宅に保管されている着物を着る機会も作られた事例では、利用者のご自宅に戻り、数枚の着物の中から利用者の好みのもを選んで、事業所で職員が着付けをされた。記念写真も撮り、ご本人は着物をなかなか脱ごうとされなかったようだ。「釣りに行く」ことをプランに挙げた事例では、職員が潮の具合を確認したり、道具を用意して、早朝から釣りに出かけられた。釣った鰯は事業所で料理して、みなでおいしく食べられたようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族やご兄弟からの聞き取りも実施し、これまでの生活の把握を行っている。特に、学習療法の中では1人1人と教材を基に回想を重ねることで、これまでの暮らし、生き方を知ることができている。中には、ご姉妹にも話したことのない「婚約者秘話」までお話して下さった利用者もいらっしゃいます。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) それぞれの得意分野を生かし役割をもった生活をもった生活をして頂けるようにしている。学習療法を実施することが、ケアに生かされており、心身状態や現状のレベルなどを把握する方法になっている。他にも、記録を生かして毎日の変化や状況が確認できるようにしている。	



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>月に1回は、ケアプランの評価を行いご家族に見て頂いている。また、各担当者によって課題・ケアの変更点についての検討をミーティング・カンファレンスを利用して実施、ケアプランの作成に反映させている。ご家族とも徘徊時の捜索方法の話し合いを行いプランへ盛り込むようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族や利用者の希望や意見を採り入れながら、利用者個々の担当職員とケアマネジャーが介護計画を立てておられる。月に一回、担当職員が評価を行い、ミーティング時に利用者個々について職員で話し合わせ、3ヶ月に一回の見直しにつなげておられる。入・退院時や「ターミナルケア」に入る時は、カンファレンスにご家族も参加して、意向を再度確認して計画を作成されている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>日常チェック表を中心に身体的な様子の記録を行い、個人観察記録においてケアの気づきや考察を実施している。朝礼・業務日誌を利用した申し送り実施することで、情報の共有を図っている。モニタリングの際は、担当者が記録の振り返りを行うことで、介護計画の見直しに反映できるようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>家庭に帰る機会を支援している。ご家族の希望でお正月にレストランへの送迎や介助の方法のアドバイスをするなどしている。他にも、一緒に釣りに行ったり、自宅のカギをお預かりして家に帰るなどといったサービスも実施している。また、体調が悪く来られなくなったご家族の家へこちらから利用者をお連れすることもある。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>5月には、地域の方がこのぼりの設置や撤去に来てくださったり、絵手紙の先生が「絵手紙クラブ」の講師を務めてくださることで、利用者への理解を深めて頂くこひとで、地域で豊かに暮らすことができるように支援している。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居者ごとにかかりつけ医への受診は、ご家族が行っている。また、希望者には、協力医による月1回の往診が受けられるようにしている。急な体調の変化には、定期往診以外にも子家族の了解を頂き、受診の支援を実施している。看護師・管理者はかかりつけ医に都度ファックスで指示や相談を頂くようにしている。	
			(外部評価) 週に2～3日、法人内の看護師の訪問があり、利用者の健康管理をされている。歯科や眼科も一度受診に行くと、後は往診で対応して下さる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日頃の健康管理のデータや様子を適宜看護師に連絡するとともに、介護職は看護師へ申し送りを行い情報をできるだけ迅速で正確に伝えることができるようにしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入退院については、家族・病院関係者を含めて看護師・管理者が中心となり、カンファレンスへ参加したり、情報提供・情報収集を行うようにしている。医療機関への適切な情報提供と家族の意向やケアの方針を合わせた要望を的確に伝えることで良好な関係が生まれ、退院へむけての取り組みが行われている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化・終末期への相談は、家族と定期的な勉強会や会話の中で話合うようにしている。訪問看護や往診の体制整備がどのような仕組みで行われるのかも、それがどうやって選択できるのかなどを運営推進会議を利用して実施し取り組んでいる。	
			(外部評価) 終末期のあり方については、意向を聞き取り記録して、職員で共有されている。ご家族と話し合う場を持ちながら支援して、事業所で看取られた事例もある。ご家族は、利用者の好みの物を用意されたり、泊まったりしながらも看取られた。職員は、リンゴのジュースやバナナ、羊羹等、利用者のお好きだったものを準備して、食べたい時に口にできるように支援された。親族や近所の方も、会いに来てくださったようだ。法人で行う、「看取りの勉強会」に職員が参加されたり、ご家族が看取りの体験談を話してくださったこともあった。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<b>(自己評価)</b> 急変時、事故発生時の対応方法の揭示を行っている。初期の判断基準を所定の場所にファイルしており、周知し職員はだれでも見ることができるようにしている。判断できない事態については、早急に看護師・管理者へ報告を実施。また、高齢者への医療行為と応急処置についての研修会への参加をすることで、実践力につなげている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<b>(自己評価)</b> 年2回は、避難訓練の実施を行っている。安全衛生委員会において水防マニュアルの確認を行い、避難場所・避難経路の確認を実施している。また、火災時には、非常ベルを屋外に設けることで近隣住民からの協力が得られる工夫をしている。 消防からも、地震についての訓練要請もあることから、今後法人全体で実施する計画になっている。 <b>(外部評価)</b> 年2回、火災を想定した避難訓練を消防署の協力のもと実施されている。歩行可能な利用者は実際に参加され、ご自分で避難できない利用者については、砂袋の人形を利用者に見立てて、避難させる訓練が行われた。ご家族には運営推進会議の時に訓練の様子をビデオで報告され、感想や意見を聞き取られた。	法人施設では備蓄されているが、副主任は、「事業所にも備えておきたい」と考えておられる。又、事業所では今後、IHクッキングヒーターを整備されたり、地震を想定した避難訓練を予定されている。いざという時に地域と協力し合えるよう、今後は、地域の方と一緒に災害時の訓練を行う等、具体的な取り組みをすすめていかれてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<b>(自己評価)</b> トイレ誘導の声掛けへの配慮。トイレでのエチケットタオルの利用をし、羞恥心に配慮している。言葉かけについては、エール言葉や幸せ言葉を活用して対応することで人格を尊重しできるだけ目線に立って話し、自身をなくすことのない言葉かけができるように対応している。 <b>(外部評価)</b> 職員は、「さすがですね」「天下一品」「気が利きますね」「何でもご存知ですね」等、利用者が喜ぶ言葉を「エール言葉」として書き出し、日々の会話に採り入れておられる。食事について、利用者は「今はしんどいから食べたくない」と言われることもあるが、無理に勧めるのではなく、「相手の立場に立って考え」、タイミング等もみながら勧めるようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<b>(自己評価)</b> 自分らしさとは、その方が選ぶすべての1つ1つです。出来る限り、衣類・飲み物・食べ物・行きたい所、したいことを尋ね、選択が難しい場合には、選択肢を少なくしたり。それでも難しい方には、身体・環境面・習慣・好みを理解し自己決定に一番近い状況に地被けるよう働きかけている。また、事故決定によりケアハウスへ転居された利用者もおられます。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は、ホームの生活支援のオペレーションに従って支援を実施しているが、基本的には、「利用者優先」で1人1人のペースを大切にしている。少しでも「当たり前の生活」を送ることができるようにし、できる限りの小さな希望を1つでも多くかなえてあげられるように支援することを目標にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 履物の選択や衣類の選択は、ご家族の協力を得ながら季節にあったおしゃれが出来るようにしている。散髪についても、ホームへ訪問美容も来るが、なじみの美容室へ継続して行って頂いている方もおられます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の身体レベルや嚥下状態に応じて、食事の形態などを工夫して最期まで口から食べられるように取り組んでいる。畑で採れた物を利用者が調理したり、近所から頂いたものを食べたりしている。月のうち一週間は、〇〇週間と題して日頃とは違ったメニューを食べることができる機会づくりなどの実施により食事が楽しくできるようにしている。	
			(外部評価) 食事は法人内の栄養士が立てた献立を基本に、食事担当職員がアレンジして手作りされている。食材は、利用者と一緒にスーパーへ買出しに行かれている。利用者は、野菜の皮を剥いたり、切ったり、食器の片付けや食器を拭く等、できることにかかわれるよう支援されている。事業所の畑で採れたキュウリを使って利用者が漬けものを漬けておられ、調査訪問時の昼食時、食卓に上っていた。利用者は、「簡単なから家で漬けておみ」とレシピを書いてくださった。事業所では食事に変化を付けることを目的に、いろいろな種類の丼ものをメニューに採り入れた「どんぶり週間」や「麺週間」「おやつ週間」等をつくり、食事を楽しめる工夫につなげておられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による献立表を基に、個別に応じた食事を提供している。水分は、食事を除く1日1500ccを目標にしているが、1人1人の体調・体重に応じて目標を決めて摂取して頂いている。好みの物を提供することを忘れない。その為種類も豊富に取り揃えている。おいしい物を提供するようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを実施し、1人1人にあったケアの仕方を法人内の歯科衛生士により指導を受けている。また、必要に応じて歯科往診により治療することもある。舌癌の利用者の口腔指導も、往診医の先生の計らいで受けることができました。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 薬をできるだけ使用せず、水分・食事・運動によって自然に排泄できるように取り組んでいる。日常チェック表によね排泄記録を利用した排泄パターンの把握をし、日中は必ずトイレでの排泄をしている。昼間の時間帯は利用者によっては、布パンツを使用するなど自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 「日常チェック表」で利用者個々の排泄パターンの把握に努め、声かけやトイレ誘導にてトイレで排泄できるように支援されている。「排泄支援担当」の職員は、排泄に関する研修に積極的に出席され、研修内容をカンファレンスやミーティングで職員に伝え、共有できるように取り組まれている。買い物に出かける際には、ご本人が希望され安心のため紙パンツを使用する方も、事業所内では布パンツで過ごされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘への対応として、個々により適切な水分量の設定・食事・運動を行うことで自然な排便をできるように取り組んでいる。排便リズムの把握を実施、トイレでの前掲姿勢や足台の利用をしている。また、便秘が身体的にも悪影響を及ぼすほどの状態になる場合は、看護師が座薬や浣腸などの処置を医師の指導のもとで行っている。	
			(外部評価) 利用者の希望にあわせて時間や順番も聞くことがある。また、バイタルや体調に合わせて入浴の支援をしている。個浴の為、車いすの方でも座位がとることが可能な方は、湯船に入って温まれている。法人内のデイが休みの日には、ひのき風呂や足湯を拝借することで入浴を楽しまれることもある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望にあわせて時間や順番も聞くことがある。また、バイタルや体調に合わせて入浴の支援をしている。個浴の為、車いすの方でも座位がとることが可能な方は、湯船に入って温まれている。法人内のデイが休みの日には、ひのき風呂や足湯を拝借することで入浴を楽しまれることもある。	
			(外部評価) 利用者の好きな時間に合わせて入浴できるように支援されている。毎日入られる方、2～3日に一回入られる方もおられる。湯船で温まってから体を洗う方、体を洗ってから湯船で温まる方と利用者の好みに合わせて支援されている。「銭湯にゆっくり浸かりたい」と言われる方には、法人デイサービスの檜風呂を利用できるよう支援されたり、恐怖心から入浴を嫌がる方には、浴槽内に台を置いて、湯船が浅くなるよう工夫されたり、体の洗い方等についても不安を軽減できるよう、職員のアイデアを採り入れ工夫して取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の好みや状態に合わせた寝具で安心して寝る事ができるようにしている。居室の温度や湿度・換気・加湿に気を配るようにしている。必要な方には、クッションの利用や体圧抜きを行うことで、安楽に休むことができるようにしている。また、寂しくて眠れない時はリビングを利用して寝て頂くなど寝る場所についても臨機応変に対応している。	
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員がすぐに確認できる所に、服薬一覧表を掲示している。服薬の内容・副作用を知ることはケアの中でも大切な要素です。薬の目的を理解し副作用を知ることはリスクマネジメントでもあり、看護師からの指示を受けながら支援に生かせるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 畑づくりに力を入れる方、家事が得意な方、色塗りが得意な方など、役割や生活歴の中から趣味や家事に携わっていただけのようにしている。日帰り旅行では、行き先を投票制にしてみたり、垂れ幕で行き先決定をお知らせするなど、サプライズのしかけをして楽しんでいただけるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩やイベントへの外出・イルミネーション見学や日帰り旅行など、平素より外出することは多い。外食や、弁当をもつての森林浴へいったりと利用者の希望も取り入れながら外出支援を行っている。ご家族の協力により家族で食事にいかれることもあります。	
			(外部評価) 日帰り旅行は、しまなみ海道を通過して伯方の塩工場を見学された。塩のソフトクリームを食べたり、景色を楽しみ写真を撮ったりされた。道中の車の中では歌いながら賑やかに過ごされたようだ。法人の他事業所との行き来や、利用者の希望で買い物等にも出かけておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お預り金としてホームで預かっていますが利用者によっては、ご家族が少額をお渡ししていて、自分の使いたいように使うことで不安の解消と買い物を楽しむ事が出来るように支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の力量に応じて、電話が可能な方は掛けたい時に職員に申し入れて頂いています。手紙についても絵手紙教室で作成したハガキを家族や、広陵のある高校生に送る機会があります。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者がす欠かさずお花を活けてくださっています。玄関には、金魚がいて、利用者がかわいがっています。リビングには、居場所を選んで過ごせるようにソファやイスを配置しています。今年も、去年失敗した緑のカーテンに職員・利用者が力を合わせて「園芸療法の日」を利用して育てています。ほとんどの方が好まれてリビングで過ごされています。	
			(外部評価) 玄関には、水槽にメダカを飼っており、利用者が餌やり等して世話をされている。居間の外には、朝顔とゴーヤの緑のカーテンを作っておられ、「ゴーヤが出来たら佃煮にするよ」と利用者が成長を楽しみにされていた。居間には、神棚があり、毎月1日と15日には利用者が榊を替えて、神棚の掃除をされている。調査訪問時には、収穫したキュウリとトマト、スイカ(小玉でソフトボール大)を供えておられた。事業所では子猫を飼っておられ、利用者がソファに座ってテレビを観ている横で、猫は利用者寄り添うようにおとなしくしていた。午後からは、職員と一緒に洗濯物をたたんでいる利用者の様子がみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間であるリビングは、畳部分とフローアの構成になっている。利用者は、自分の居場所を選択することができるようにして、安心して過ごせる所を選ばれています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた馴染みの道具を持ってこられたり、写真やぬいぐるみ、人形などをおいて自分の部屋であることをわかりやすくすることで、居心地良く感じられる工夫をしている。	
			(外部評価) 各部屋には、手作りのカレンダーを貼り、行事予定や「ゴーヤの水遣りをする」等、「今月の私」の欄に自分の今月の目標を書いて、できたら○を付けたりシールを貼ったりされている。お通じのあった日に印を付けたり、受診日を書いている方もあった。ご家族が作った人形を大切に飾っている方は、「可愛いかな?私に似とろ?」と見せてくださった。化粧道具を置いて、使っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレ、ふろ場などわかりやすい表示や場所に掲示をするようにしている。手作りの日めくりや壁掛け時計の位置も利用者によりわかりやすく配置している。また、ホーム内の整理整頓清掃を心がけることで、職員が効率的に仕事をし、利用者が安全に暮らすことが出来るようにしている。	